【様式３-１】

公益財団法人 樫の芽会　御中

令和６年度伴走型就学・学習支援活動助成　実施報告書

【団体の概要】

		① 作成日	令和　7 年　5 月　1 日
②法人・団体名	認定 NPO 法人 CLACK		
③団体所在地 （都道府県・市町村名まで）	大阪府大阪市淀川区十三東４丁目１−５　よどがわベース 2 階		
④責任者氏名	井上泰孝	（役職名等）	事業統括部長
⑤担当者氏名	徳永百合名	（役職名等）	事務局

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R06-023	⑦助成金額	50 万円	⑧申請カテゴリー	F
⑨奨学活動名	困難を抱える高校生を対象としたプログラミング学習支援・キャリア支援事業				
⑩主な実施場所名・及びその住所	東京都大田区山王１丁目４１−６　ニュー山王				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式３-２】又は別添資料にて記載・説明ください。）

生活困窮やひとり親、ヤングケアラー、不登校といった様々な困難を抱える高校生を対象に、プログラミング学習支援とお金・生活・進学について学ぶキャリア支援を提供した。教室は週 1 回×3 ヶ月間を 1 タームとし、3 カ月で Web サイト、ゲームアプリ等の何らかの制作物完成を目指した。同時に、お金・生活・進学について学ぶキャリア支援も実施した。なお、教材費等は無料、交通費と PC を支給し、お金が理由で学びを諦めることがない体制とした。
教室では生徒からの質問が活発にあり、オリジナルの作品を制作するにあたって、アレンジしたいことや目指すイメージ等を明確に持ちながら行動できていた。実際、生徒が制作した WEB サイトや自作アプリの質が高く、こだわりを持って制作していたことが見て取れた。
教室の開始前、終了時に生徒の変化を見るアンケートを実施したところ、ほぼすべての項目で比較値が上昇、また、生徒の声としても肯定的な感想を多くもらえた。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式３-２等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 （Ａ：人）	平均時間 （Ｂ：時間）	活動量 （Ａｘ Ｂ）	備考・補足・計算根拠等
中学生等				
高校生等	198	2.5 時間	495 時間	出欠状況×1 回 2.5 時間
大学生等				
学習支援員等	130	2.5 時間	325 時間	出欠状況×1 回 2.5 時間
その他				
合　　計				

⑬その他の定量的な数値（任意）

【様式３-２】

令和６年度伴走型就学・学習支援活動助成　実施詳細報告書

奨学活動名：困難を抱える高校生を対象としたプログラミング学習支援・キャリア支援事業

法人・団体名：　認定 NPO 法人 CLACK
作成者　氏名：　徳永百合名

１．取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

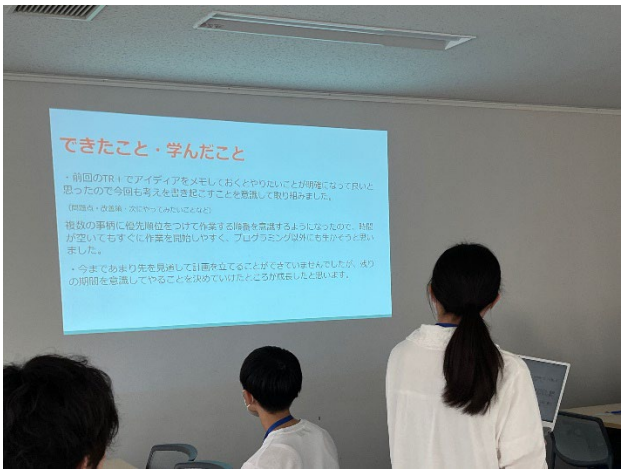
現在貧困状態にある、または発達障害、不登校、ヤングケアラー等の要因により、将来的に貧困状態に陥る可能性の高い高校生を対象に、経済的・精神的自立を目指すプログラミング学習・キャリア教育教室を実施した。

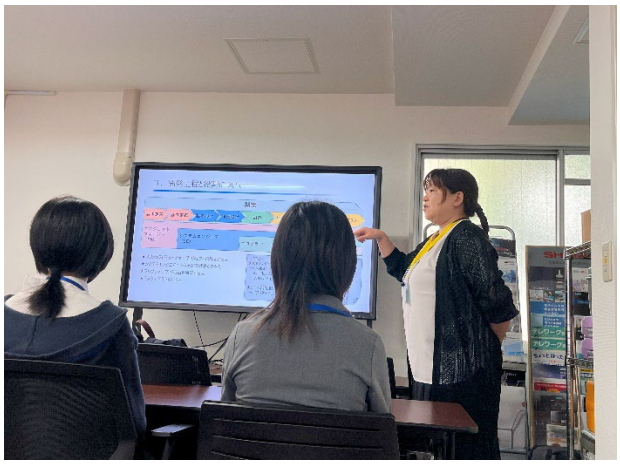
本事業を通じて、IT 人材不足および多職種での DX 化が進む中においてプログラミングを学ぶこと、また現役の IT エンジニアからキャリア支援を受けることで職業選択の幅を広げ、経済的自立につなげること、また、「分からないことを自ら調べる力」「自分で解決できないことを他者に聞く力」などの内面的ソフトスキルを醸成するとともに、自らの力で Web サイトやアプリを完成させることで成功体験、自己肯定感の向上も目指し、精神的自立につなげることを目指した。

２．実施した奨学活動の詳細

活動内容の詳細

生活困窮やひとり親、ヤングケアラー、不登校といった様々な困難を抱える高校生を対象に、プログラミング学習支援とお金・生活・進学について学ぶキャリア支援を提供した。教室は週１回×3 ヶ月間を 1 タームとし、3 カ月で Web サイト、ゲームアプリ等の何らかの制作物完成を目指した。同時に、お金・生活・進学について学ぶキャリア支援も実施した。なお、教材費等は無料、交通費と PC を支給し、お金が理由で学びを諦めることがない体制とした。





参加人数
27 人

周知方法や協力いただいた関係者
周知方法としては、当団体が既に支援を行っている高校生に、ステップアップの場として周知を行った。また、関東圏の高校や、NPO 法人しんぐるまざあずふぉーらむ、一般財団法人あしなが育英会、NPO 法人キッズドアなどの、ひとり親や経済困窮家庭支援の NPO 団体等にチラシの配布を依頼した。

地域やボランティア活動との連携
地域企業との関わりでいうと、日本 hp 社の社員より、キャリアトークを聞く機会を提供いただき、IT 企業の仕事や、大企業での働き方等を聞く機会を持てた。また、本事業にボランティアとして参加した現役の IT エンジニアから仕事やライフスタイル等についての話を聞く機会を設け、プログラミングスキルに限らず、高校生の将来に役立つ機会を提供できた。
また、高校生がプログラミング学習に使用するリユース PC を、BHP ジャパン社、LIFULL 社、JLL 社等から寄贈を受けた。

学習支援員について
申請事業統括職員 1 名 / 事務局職員 1 名 / 社会人エンジニアリーダー（有償）1 名 / 社会人エンジニアボランティア（無償）5 名
プログラミング学習支援・キャリア支援の教室は団体職員が全体統括を行いつつ、主に IT 企業に在籍するエンジニアのスタッフが技術指導、キャリア支援を行った。高校生 3〜4 人に対して 1 人のボランティアが担当することで密なコミュニケーションを取れる体制とした。

購入した機材・物品の写真（助成表示用シールの貼付）
購入機材・物品なし

３．本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等
【成果】
生徒からの質問が活発にあり、オリジナルの作品を制作するにあたって、アレンジしたいことや目指すイメージ等を明確に持ちながら行動できていた。実際、生徒が制作した WEB サイトや自作アプリの質が高く、こだわりを持って制作していたことが見て取れた。
また、教室の開始前、終了時に生徒の変化を見るアンケートを実施したところ、下記項目で、「あてはまる」以上にチェックした人数が大幅に向上した。
- 自分に対して肯定的である。
- 就職や進学に向けて、自ら計画を立て、勉強を励んでいる
- 自分で目標を決め、その達成のために頑張っている

また、これ以外の項目に関しても概ね数値が上昇し、当団体として生徒の変化が見て取れたとともに、高校生自身も自分自身が「変わった」と感じ取れていることが分かった。

さらに、生徒からの声として、下記のような感想があり、高校生との関わり方、教室の雰囲気といった面でも肯定的な感想をもらえたと感じている。
- 参加するたびにプログラミングの世界が広がった。もっといろんなコードを書いていきたい。
- プログラミングの学びを深めるいい機会と場で、とても満足しています。

- 毎回新たな発見や進捗がありとても楽しくて、忙しい中でも参加できてよかったです。
- アプリを作るという目的が達成できた。スタッフさんも丁寧に接してくれて、学びやすかった。

また、教材費、リユース PC 支給、交通費支給で実施できたことで、困難を抱える高校生の「学びたい」というニーズを漏らさず、学びを提供することができた。

【今後の課題】
参加者数が計画時の目標値（30 人）よりやや下回った（27 人）。理由として、高校生にもヒアリングしたところ、部活、バイト、テスト期間などにより参加できない時期があるといった回答があった。そのため次年度は、3 ヶ月間×年 3 回といったような区切ではなく、通年で教室を開催する、また、オンライン開催を併用するという改善策をもって実施したい。本策によって、高校生にとっては参加のハードルが下がり、参加者増が見込まれる。また、期間の縛りなく継続的に関われることで、プログラミングスキルだけでなく、コミュニケーションも持続的に取れることとなり、より密に伴走支援ができると考えている。
また、本プロジェクトを確実に継続させつつ、改善し、かつ拡大していく必要があると感じている。これまでは「プログラミング」というくくりで活動を行ってきたが、プログラミングといっても WEB 制作、ロボットプログラミング、アプリ開発など様々な種類があるため、生徒のニーズや社会の需要も考えつつ、学べるコースや人数を拡大していきたい。また、プログラミングを学んだ生徒が、そのスキルを活かして実践機会を得られるような場（インターンや案件受託など）づくりも始めているが、これをより強化していきたい。

４．本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）
近年、プログラミングや IT に関する高校生の興味関心の高まりを感じている。本事業に参加する生徒も、最初から「親や知人のお店の WEB サイトを制作する」等の具体的目標があった生徒もおり、IT 知識を日常に活用することが、高校生にとっても当たり前になってきていると感じた。反対に、教室開始時は特に目標がなかった生徒もいたが、最終的には全員がなんらかの制作物を完成させており、学ぶ場とサポートさえあれば子どもたちが将来的に自走するための力を身につけられるということがあらためて感じられた。そのため、様々な困難を抱える子どもたちのために、引き続き「プログラミング学習支援」という取り組みを続けていきたいと感じている。